薬学生Yさん

この度は、インタラクティヴセミナーに参加させて頂き、ありがとうございました。これまで多くのセミナーに参加してきましたが、これほどまでに充実したセミナーは、正直今回が初めてでした。

日常の業務でお忙しい中、私達のために時間を作り、暖かく迎えてくださった職員の皆様には大変感謝致しております。

チーム医療シミュレーションでは、医師・看護師がどういった視点で患者さんに向き合っているのかを知る事ができました。

特にこれまであまり関わる事の無かった看護師の記録は、私の想像を遥かに超えていて大変驚きました。恥ずかしながら、看護師は『患者さんの身の回りの世話と薬剤投与などの医療処置をしている人』というイメージが強く、患者さんのケアのためにどういった方法で介入しているのかを詳しく知りませんでした。今回のシミュレーションを通して、看護師は患者さんの病態面だけでなく、生活・人間像を総じて患者像を作り、その上で患者さんが快適な入院生活を送り最適な治療を受けられるよう、チーム医療の一員として支えてくださっている事を学びました。また、「 宗教を聞いていないのに輸血をしたとドクターから言われ焦った 」「患者さんの自尊心を傷付けないためにはこちらの選択が良い」など、聞けば当たり前に頷ける事でも私自身は全く学んでこなかった事を看護学生は意見していて、同じ医療職でもこんなにも介入の視点が違うのかと、ハッとさせられる事も多くありました。

選択実習では、創傷ケアセンター・臨床工学科・リハビリテーションセンターの 3 部門の見学、また看護師の準夜勤業務を体験させていただきました。

特に臨床工学科では、病院でよく目にする機会はあっても、詳しい原理を知らなかった、内視鏡・透析・人工呼吸器・輸液ポンプなど、医療には必要不可欠な多くの機器について、実際の機械を前にし、非常に細かな部分までを親切丁寧に教えて頂くことができ、大変勉強になりました。

他職種の業務内容を知るということは、チーム医療に繋がる事は勿論ですが、薬剤師として入院患者さんに関わる際にも大変重要であると思っています。一例を挙げさせて頂きますが、病院実習で抗がん剤治療を行っている患者さんの服薬指導を行った際、患者さんが放射線治療について話をしてくださり、更には質問を投げかけてくださった場面がありました。しかし当時の私は放射線治療に関して知識が薄く何もお答えする事が出来ず、会話がそこで途絶えてしまった、という苦い経験があります。当時は放射線技師・薬剤師・PT,OT,ST・臨床工学技士…など、コメディカルはチーム医療として各々の専門性を発揮する事こそが大切で、私は薬のスペシャリストであれば良く、他の分野についてはそれぞれ

のスペシャリストに頼れば良い、という安易な考えを持っていました。しかし、この経験を気に、チーム医療の一員として薬のスペシャリストである事は当然であり、その上で、医療に関してジェネラリストである事が、『患者さんと薬』という断片的な介入ではなく『患者さんをトータル的にみる』という介入に繋がり、強いては、それが患者さんとの円滑なコミュニケーションに繋がるのではないかと感じるようになりました。

こうした理由から、3 日間の選択実習は、私にとって今後に役立つ非常に有意義な時間となりました。そして何より、今回のセミナーでは、積極的で意識の高い 11 人の学生と出会うことができました。生涯自己研鑽の私にとって、こうした最高の仲間を持てたことは何にも代え難い一生の財産です。

意見する時は大きな声で、そしてお互いを尊重しあい敬意を持って接する。まずはこれを基礎とし、今回のセミナーで感じたこと学んだことを糧として、これからも視野を広く持ち、患者さんとその御家族、職場の仲間から信頼される薬剤師になれるよう自己研鑽に励みたいと思います。

最後になりますが、大変貴重な機会を与えてくださったインタラクティヴセミナー関係者の皆様、寝食を共にし、意見し合った 11 人のみんな、4 日間本当にありがとうございました。

またお会いできる日を楽しみにしています。

薬学生 M さん

私は、今回のセミナーで大きく３つ学んだことがあります。

１つ目は、初対面の人と親睦を深めるためには寝食を共にすることが大変有効であるという点です。

私は、元来内向的な性質で、飲み会の場などでも所見の人に対して会話が続けられずに、関係を深めるためにとても時間を有するタイプです。今回のセミナーや、その他の病院見学・説明会などでも、毎回会場につくまでなぜ応募してしまったのかと悶々と考えながら移動していました。到着ししすぐ、食堂で朝食をとったのですが、その際に薬学部の参加メンバーに会い、自己紹介や会場までの道中を話し、少しセミナー開始までの緊張がほぐれました。また、自室から会議室へ移動する間に会ったメンバーと会話をしたり、温泉施設に連れて行ってもらい露天風呂で部活や趣味、将来の夢や就職など様々なことについて語り合ったりしました。寝る前に談話室で集まり分からないことを教えあったり、ほかの考え方を共有したり、納得できるまで調べものをしたりする中で、「このメンバーになら自分の思っていることを正直に話しても聴いてくれそう」「メンバーそれぞれのこれまで頑張ってきたことや考え方を聞いてみたい」と思うようになりました。最終日などはなにも相談しなかったのですが、自然に集まってなんとなく一緒に過ごすことが心地よく思えました。加えて、この 4 日間という日程の中では、徐々に打ち解けていくことが実感されるのと同時に別れが近づくという状況も、短時間で関係を深めることができた一つの要因であると思います。多職種連携についての講演会などを聞きに行く機会はこれまで何回もありましたが、お互いをよく知り関係を深める上で、同じ釜のごはんを食べて生活を共にすることの威力を体感しました。

２つ目は、グループ内での知識の共有の際、より相手にとってわかりやすく伝えることの大切さを感じた点です。今夏の症例検討会で自分の意見を他のグループメンバーに伝えるとき、自分の中の常識と他人の常識が違うことから、齟齬や誤解が生じうることを念頭に、いかにわかりやすくかつ効率的に言葉を選んで話すかということを、考えさせられる機会が多くありました。薬学部で通じることが必ずしも他の学部の人に通じるとは限らないことや、知識の幅や深さ、着目する視点がそれぞれ違うことを、ディスカッションをして実感しました。印象的だったのは、輸液の話をする際、薬学生の持っている輸液の種類や用途、規格や用法容量などの知識と、看護学生の持っている投与経路の確保や投薬の際の注意すべき点に関する知識が合わさることで、初めて患者にもとに薬が届くという流れをイメージ出来た時でした。また、看護学生の患者情報の聞き方や内容、患者面談の際の患者への配慮などはとても興味深く、医学生の病態に関する知識や気さくで親しみやすいところがこれまで持っていたイメージと異なり新鮮でした。

３つ目は、薬学部の専門性についての認識を深めることができた点です。普段の生活の中では他の医療系の学部との交流が少なく、薬学部の持っている特色や強みを意識する機

会がありませんでした。今回、薬物治療における処方解析や処方提案など、講義や病院実習で学んだ考え方やこれまでの知識が、実際のチーム医療に結び付いていくのを感じることができました。

今回のセミナーで、他者との関係を深めるためには密度の濃い時間の共有が大切なこと、他の職種の特徴を知ることで初めて、自分の職種の強みを生かすことができるということを体験することができました。

庄内余目病院でお世話になった先生方、4 日間の生活面でお世話になった事務の皆様、一緒に過ごした 12 人のメンバー全員に、心より感謝申し上げるとともに、皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げます。

薬学生 T さん

今回のセミナーでは、チーム医療についていろいろな面から視野を広げることができたり庄内余目病院で行われている診療や患者さんの表情を間近で見ることができ、かけがえのない経験をすることができました。セミナーに参加する前は 3 年生で専門知識を学びはじめたところだということもあり、自分の今持っている知識が現場でどのように反映されていくのか知りたいという気持ちもありました。

選択実習では創傷回診、透析センター、医療相談室を見学させていただきました。

創傷センターでは各病棟に回ってたくさんの患者さんを見させていただきました。褥瘡を直接見るのは初めてのことだったので少し衝撃的でした。長時間同じ姿勢によってできた褥瘡以外にも放射線の影響でも褥瘡ができてしまうことや静脈瘤、糖尿病性疾患などさまざまな原因で慢性の傷ができてしまうことを知りました。また、回診の際にチームのスタッフの方が明るく元気に声をかけながら患者さんと接しているのが印象的でした。

透析センターでは初めて透析されている患者さんを近くで見たり、患者さんのシャントを直接触らせていただくことができました。また回診の様子も見学させていただくことができて、患者さんに話しかけるときの様子や見ているデータのポイントなど勉強になることがたくさんありました。後半からは臨床工学技士さんから透析の機械や使う透析液について詳しく教えていただくことができました。とにかく透析液に水をたくさん使うということで震災の時は透析患者さんを船に乗せて海水を浄化して使っていたこともあるというお話も伺って驚きました。

医療相談室では MSW の方からお仕事の概要や使っているパソコンのシステム、実際の相談内容についてお話ししていただいた後に一人の患者さんの面談に同席させていただくことができました。その中で、MSW さんは患者さんの漠然とした不安を聞きつつも、何で困っていてどうしたいのかをきちんとくみ取っていくことが大切だということをおっしゃっていて、これは自分たちが薬歴聴取などをするときにも必要なことだと思いました。MSW の方の穏やかで話しやすい雰囲気が印象的だったので私もこんな風に患者さんと接してみたいと思いました。3 日目の午後に実際にお話を聞いていただいたときには丁寧に話を聞いてくださって、私たち医療者も安心することができ、生活や制度に関する専門家がいるありがたさを感じました。

チーム医療シミュレーションは一言では表せないほどいろいろなことを感じ、多くの方にお世話になりました。以前簡単なアイスブレイクでチーム医療を少しだけ体験したことがあったのですが、今回のシミュレーションではただデータを共有して計画を立てるだけでなく、患者さんを治療したいという思いや今あるデータをもとにどの治療や薬を選択すべきか深く考えることが大切だと感じました。実際の症例をもとにして患者さんと出会っ

てからの一段落するまでの過程を順にひもといていく作業をする中で、齋藤先生もおっしゃっていたように病気をみるのではなく患者さんという“人”をみることができたような気がしました。とはいってもそう感じるまでには少し時間がかかりました。薬歴などを聴取するロールプレイでは必要な情報を聞くことがやはり難しいと感じました。チームをしっかり作るためには自分の専門性を磨くことの重要性を痛感し他と同時に、今やっていることが基礎になって臨床で必要な知識が積みあがっていくのだと感じました。また、私はもとから質問することが得意ではなく、セミナー期間中も声を発することは少なかったのですが今回学んだことをもとに少しずつ克服していきたいと思いました。病状説明のロールプレイでは患者さんや家族の方からこちらが考えていなかった質問や相談をされる場面があったので、急な時の対応に備えていろいろなことを知って自分の中の引き出しを増やしていきたいと思いました。今回シミュレーションさせていただいたのは現場のほんの一部に過ぎないと思いますが、最後のクロージングのときに患者さんとご家族のその後の様子をきいてとても温かい気持ちになりました。

私の目標の一つに、「薬学や医療を通じて人々に健康と笑顔を届けたい」という目標があります。この「笑顔を届ける」ためには自分が笑顔でいることはもちろんですが、患者さんにとってベストな治療や薬をチーム一丸となって自信をもって提供できるという裏付けも必要なのだと感じました。

今回学んだことを踏まえて大学で知識をつけもう一度このセミナーに参加したい、あるいはどこかで同じような内容をチームで解決するシミュレーションをしたいと強く感じました。

大学ではひとつひとつの科目に集中することはもちろん、リスクとベネフィットの決定が難しい薬の選択について等自分の関心のあることを広く学んでいきたいと思います。

素敵な仲間に囲まれ、充実した 4 日間を送ることができました。関わって下さったすべての方に感謝の気持ちでいっぱいです。

ありがとうございました。

薬学生 T さん

今回の実習に伴い、私はチーム医療というものの難しさを感じました。私は一つの症例に関して、薬学生という視点からできるだけ考えをまとめました。しかし、医学生は行うべき検査や治療方針を主に考え、看護学生は患者さんができるだけ無理のない生活を送る事ができるように考えていました。このような、話し合いの中で考えを変えなくてはいけないことがとても多く、患者さんの事をあまり理解できてなかったという事に少し落ち込みました。それぞれの専門性からどの視点で見ればいいかと言うものが違うことを痛感させられました。話し合いをして、再度考えてみるというという形をとることで改めて自分の処方計画を考え直せてこのような医療の形だったら楽しいと感じることが出来ました。今回は一つの症例に関してだけでしたが、本当は 1 日にもっと多くの患者さんたちが来ることと思います。つまり、あれだけの時間をかけることは出来ないのだろうと思うと医療現場の激務がひしひしと感じられる次第でした。

創傷ケアセンターでは、普通の病院では経験できないであろう褥瘡についての治療風景を見ることができ、大変勉強になりました。そこで驚いたのは、数人が回診している中でもチームとしての連携が取れていたことでした。私が目指している薬剤師が関わることは見たところではなかったのですが、チームの間で連携が取れているというものがどういう事であるかを思い知らされました。

薬局実習では実際に薬剤師さんが行われている業務に参加させていただくことが出来ました。患者さんたちに飲んでいただくためにマーカーで朝昼晩色分けするなど、工夫をしている事等、将来こんな薬剤師になりたいと考えるうえで基盤となるような体験をさせていただきとてもうれしく感じました。

病棟の見学では褥瘡を抱えた患者さん等の清拭の体験をさせていただきました。その前の日で行った創傷ケアセンターや薬局で知ることが出来た知識を使うことができ、とても楽しく感じました。

私は看護の準夜にも参加させていただいたのですが、このインタラクティヴセミナーを通して看護の素晴らしさにも触れることが出来ました。これからは薬剤師が直接看護師の業務にかかわることは無いかもしれませんが、看護師の方々の事をもっと考えられる薬剤師になりたいと思います。

私が実習をうけるうえで感じたのは知識不足でした。しかし、医学生や看護学生さんのお話を聞いていくうちに知らない知識を補って、自分の意見も述べることができとても楽しかったです。チーム医療という言葉は大学の方でも重視しているものであるのに、全然わかってなかったと思いました。授業では学べない物を経験させていただきました。これは、この先でも必ず知識として生きてくるものであると思います。